



令和2年度 気仙沼向洋高等学校卒業式・修了証書授与式



学校長式辞

冬の寒さが和らぎ、海を渡る風が温もりを運びます。鳥の歌声が希望の春の訪れを告げる今日の佳き日、宮城県気仙沼向洋高等学校、令和2年度卒業証書並びに修了証書授与式を挙げていきますことは、大きな喜びであります。社会全体がコロナ禍の状況にありますが、皆様のご協力のもと、こうして集い祝うことができますことを嬉しく思います。保護者の皆様には心より御礼と感謝を申し上げます。

さて、高校課程の卒業生112名、専攻課程の修了生5名の皆さん、卒業・修了本当におめでとうございます。皆さんは、どんな気持ちで今日という特別な日を迎えたのでしょうか。たくさんの思い出を胸に抱いて感無量であるとともに、大空高く飛翔するような爽やかな気持ちではないかと推察します。

皆さんは、九条校舎を経験した最後の年代です。皆さんの青春は、震災を乗り越えて新たなステージに進む本校の歩みそのものと重なります。各学科での専門的な学びを極めようと努力した学習活動、自分の可能性に挑んだ部活動、クラスの絆を深めた行事やホームルーム活動、九条地区、階上地区の皆様や小中学生と交流した地域交流活動、東日本大震災を未来に語り継ぐ「語り部活動」、そして、日々教室で交わした友との何気ない語りなど、たくさんの経験や思い出が皆さんを成長させ、大人への入り口に導いているのだと思います。昨年度末からこれまで、コロナ禍によっていろいろな苦労や制限がありましたが、皆さんは不満を語ることなく前向きに突き進み、輝いていました。例えば、向洋祭では、厳粛に新生活様式に則りながら、上手に企画・運営してエンターテインメント性を発揮できました。「できる範囲」で「何ができるか」をよく考え抜いて、当初の想定以上の効果をもたらしたと思います。皆さんの、軽やかでひたむきな姿とその取組は、新たな本校の歴史のページにしっかりと刻まれました。

それでは、新たな人生に漕ぎ出す皆さんにメッセージを送ります。まず第一に「笑顔を忘れないこと」です。「笑う門には福来たる」と言いますが、笑顔はコミュニケーションの一つであり真心です。自分も相手も明るい気持ちにする力があります。人生にはいろいろなハードルがあると思いますが、「笑顔で心を励ます」ことが局面を変えます。そして、大切なのは倒れないことより、すぐに起き上がることです。その元気の源が「笑顔の力」です。もう一つ伝えたいことは、「心の目で、ものごとをしっかりと見つめる」ということです。サン・テグジュペリの『星の王子さま』の有名な一節を引用しましょう。「ものごとは、心で見なくてはよく見えない。一番大切なことは目に見えない」という台詞があります。私たちが生きる社会はめまぐるしく動きます。人々は懸命に頑張りますが気がつくとも目に見えやすいもの、例えば利便性・損得などにとらわれてしまい、本質を見ることを忘れてしまいそうなことがあります。そこで、虚心坦懐に「心の目で見る態度」が大切です。目に見えない大切なものは、絆、人情、時間などいろいろあります。自分なりに捉えてみてください。そして、本校で培った尚志・創造・力行の精神を大いに発揮し、しっかりと歩んでください。応援しています。

保護者の皆様、生まれた頃から健やかなに育つよう祈り続けられた皆様のお子様はたくましく成長しました。思い起こせば、本当にいろいろなことがあったことと推察します。親子で笑い喜び合ったこと、心を強く持つように励ましたこと、心配しながらじっと見守ったことなど、すべてが愛おしい記憶であり、慈しむべき人生の宝物でしょう。お子様は、今まさに巣立ち自らの翼で未来に向かって大きく羽ばたこうとしています。感慨ひとしおのことと存じます。改めまして、晴れの門出をお祝い申し上げますとともに、お子様たちの大いなる飛躍を祈りつつ、学校として卒業生・修了生の皆さんを、これからも見守っていければと考えております。

結びに、卒業生・修了生の皆さんが、気仙沼向洋高等学校の生徒であったことを誇りとして、それぞれの目標に向かって努力され、大輪の花を咲かせますことをお祈りいたします。そして、本日まで参加の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、式辞といたします。

気仙沼向洋高等学校長 荒木 順



情報海洋科 38名



産業経済科 39名



機械技術科 35名



専攻科漁業科 3名



専攻科無線科 2名

送辞 在校生代表 産業経済科2年 梶原 愛未

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じられるようになりました。暖かな日差しに包まれたこの良き日に向洋高校を旅立たれる先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

さて、先輩方はこの式が始まるまでの間、どのようなことを思い返しながらかけていたでしょうか。皆さんが入学するのと同時に新調された制服に身を包み、仮設校舎から新校舎へと学びの場が移った一年生の頃。本格的な専門教科を学び始め、「先輩」と呼ばれる立場になり、ますます勉学や部活動に身が入った2年生の頃。そして、3年生となり、自分自身を見つめ直すきっかけとなった進路活動が始まりました。楽しい思い出はもちろんのこと、悔しい思いをしたことも含め、たくさんの思い出と学びの詰まった3年間であったことと思います。

私が持つ先輩方のイメージはなんといっても元気と笑顔です。先輩方が朗らかに挨拶の声をかけてくださることで私たちはいつもパワーをいただき、校内には明るい笑顔が満ちていました。昨年度行われた体育祭では各科とも個性的なクラスTシャツを用意され、競技する前から先輩方のオーラに圧倒されました。中でも機械技術科の先輩方は、ドッジボールや棒引きゲームで見事なチームワークを発揮され、一学年違うだけでこんなにも素晴らしいパフォーマンスができるものかと驚いたことを鮮明に覚えています。

向洋祭では、科ごとに特色を生かし、クオリティーの高い模擬店を出店されていました。特に産業経済科の先輩方は販売実習を経験されていることもあり、一人一人が丁寧な接客を心がけている姿が印象に残っています。来てくださる方に楽しんでもらえるようにと、レイアウトにも様々な工夫が凝らされていました。カラオケ大会では、情報海洋科の先輩方は全員で登壇し、素敵な歌声とキラのあるダンスで「男の勲章」を披露され、その一体感で私たちを楽しませてくださいました。先輩方がどの行事にも全力で立ち向かっていく姿に、私たちは強く引きつけられ、こうなりたいと憧れました。2020年2月。新型コロナウイルスが全国的に蔓延したことにより、緊急事態宣言が発令され、学校は休校を余儀なくされました。登校再開は延期を重ね、今年度は六月に新学期を迎えることとなりました。これからの人生を左右する進路活動が始まるという大切な時期が二ヶ月遅れ、進路への不安な気持ちで胸がいっぱいだったことと思います。このような状況であっても、先輩方は精一杯努力されました。皆さんの、自らの進路を切り開こうとする懸命な姿に、私たちは尊敬の念を新たにしました。

思い返せば、2011年の東日本大震災や現在の新型コロナウイルスの影響などにより、学校で学ぶべき期間に幾度も平穏な日常を奪われてきました。しかし、その度に先輩方は困難と向き合い、大きな壁を乗り越えてこられました。その経験から強く優しく成長された先輩方の背中を追いかけ、私たちは多くのことを学びとることができました。今日、この式を終えると、皆さんは一人一人違った旅路を歩むこととなります。平坦な道とは限らず、誰しもの大きな壁にぶつかることもあると思います。しかし、皆さんは私たちをこれまで励ましてきてくださった元気と笑顔を持っています。そして、皆さんがこれまで努力して身につけてきた知恵や、周りの人との信頼関係が、壁を乗り越える力を与えてくれると思います。

いよいよお別れの時となりました。今日まで私たちを様々な場面で支えてくださり、本当にありがとうございました。先輩方のように、人にパワーを与えることができる人になれるよう、日々努力し、活気あふれる向洋高校を築きあげていくことを誓います。

最後になりますが、先輩方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞といたします。



答辞 卒業生代表 情報海洋科3年 奥玉 新之助

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じるようになりました。本日は私たちのためにこのような状況の中、盛大な式を挙げていただき、誠にありがとうございました。校長先生からの激励のお言葉を胸に、本日、私たちは気仙沼向洋高校から旅立ちます。

今、この場所で過ごした日々を振り返ると、本当に様々なことが思い出されます。

高校1年の4月に入学式を迎えた場所は、ケーウェブでした。お互いのことが全くわからず、最初は友人ができるか心配でした。しかし、日が進むにつれ、だんだんと打ち解けていき、初めは静かだった教室も次第に賑やかになっていきました。野外活動や体育祭、向洋祭、修学旅行など多くの行事を通して、大切な友人を作ることができました。

私は特に部活動に思い出があります。私の所属している相撲部は、入部当時私を含め部員が三人しかいませんでした。たった三人の部活動はとても大変で、ぶつかり稽古をするときにはOBの方々にも協力していただきました。三年生の時には人数が増え九人の仲間と活動することができました。県高校総体団体第2位、体重別個人戦第1位など多くの成績を収めてきましたが、部活動で得たものは戦績だけではありません。つらいときにはお互い支え合い、励まし合える仲間の大切さを知ることができました。これらの経験は今後必ず役に立つと思います。

県高校総体団体第2位、体重別個人戦第1位など多くの成績を収めてきましたが、部活動で得たものは戦績だけではありません。つらいときにはお互い支え合い、励まし合える仲間の大切さを知ることができました。これらの経験は今後必ず役に立つと思います。学んだことを忘れず、日々精進していきたいと思っています。

学校生活ではいつもたくさんの友人達や先生方が側にいました。友人たちとは時には協力し合い、時にぶつかり合いながら強い絆を育んできました。この絆は一生の宝です。また先生方は、いつも親身になって私たちと向き合って下さいました。授業はもちろん、学校生活や学校外での悩みを聞き、優しく励まして下さいました。

私が特にお世話になったのは進路活動です。私は人前で話すのがとても苦手だったので、面接練習を始めた当初は不安で仕方がありませんでした。しかし、指導をして下さった岸先生の的確なアドバイスを頼りに何ヶ月も練習を重ね、志望校に合格することができました。担任の阿部先生、副担任の謙太先生をはじめ、多くの先生方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

私たちが無事に卒業できるのは、家族の存在が一番大きいと感じています。毎日お弁当を作ってください、学校への送迎をして下さり、不満やつらさを打ち明けるときには静かに話を聞いて下さいました。3年間、未熟な私たちを支えて下さったことに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、先ほどは心温まる送辞をありがとうございました。これからは、1、2年生の皆さんが向洋高校を作っていくこととなります。1年生は後輩を指導し、2年生は新3年生として学校を引っ張りながら、自らの進路活動に力を入れなければなりません。4月からはとても忙しい毎日がやってきますが、諦めずに自分の進むべき道を歩んで下さい。私たちも応援しています。

私たちは、向洋高校で学んできた経験と絆を大切に、それぞれの道へはばたいていきます。

最後になりますが、先生方や家族、地域の皆さんをはじめ、私たちを支えて下さった全ての皆様方に改めて感謝するとともに、向洋高校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

